

研究指導 石光 真 教授

会津若松市に武将隊を導入したときの費用効果分析

—仙台市の事例を参考にして—

檜崎 翔汰

1. 研究背景

1.1 会津若松市の歴史的資源

会津若松市は歴史のある城下町である。その歴史を遡ると、戦国時代、蘆名氏の領国であったことから始まり、伊達家による支配、1590年(天正18)の豊臣秀吉による奥州仕置によって蒲生氏郷が入部、氏郷自身の故郷である近江日野から商人を呼び寄せることや、楽市・楽座の導入など商業政策を行ったことによる会津藩の発展、戊辰戦争等の様々な歴史を経ている。鶴ヶ城、飯森山、御薬園、七日町等様々な歴史的な観光資産が存在しそれぞれ文化的な特色を生かした観光地として周知されている。その観光資産を会津若松市は会津若松観光ビューローや『SAMURAI CITY AIZUWAKAMATSU』等の観光特設サイトで取り上げている。

1.2 仙台の武将隊

仙台市には「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」が存在する。2010年に結成され仙台市、宮城県をPRし活性化させることが主な活動となっている。仙台城址での演武披露(出陣と呼ぶ)が主な活動であるが、TV出演、CM出演、有料イベント等も行っており、その存在を仙台市民は周知している。

1.3 会津若松市の観光客数の推移

会津若松市の観光客数は2010年約278万人であり、震災が発生した2011年は約235万人であった。その後2014年に『八重の桜』のブームにより観光客が約400万人まで増加した後は約300万人程度で推移している。また鶴ヶ城の観光客入込数は2010年約50万人、『八重の桜』のブームにより2013年約94万人と増加した後、現在まで約60万人程度で推移している

図1 会津若松市観光客数入込数



図2 鶴ヶ城観光客入込数



1.4 会津若松市の「侍」演出

会津若松市では甲冑姿の侍、武将が殺陣や、踊り等を行う場面がある。会津まつりでは新選組や白虎隊、松平容保の格好をした青年が巧みな演出を見せる。

また過去に会津若松市では震災等緊急雇用対応事業による雇用創出という名目により鶴ヶ城周辺で侍演出という名目で甲冑姿の役者を配置しサービスを行うことを2013年から行っていた。この事業は事業の大幅な縮小が起きた2017年3月まで行われていた。ただしこの会津若松市での緊急雇用対応事業の侍に関する事業は市のみが関与をしており民間企業への委託事業ではないためこの事例はおもてなし武将隊には当てはまらない。

2. 武将隊について

2.1 武将隊の概念、概要

はじめに伊達武将隊を紹介してしまいが武将隊の定義について紹介する。

西田・倉橋・伊藤(2020)によると武将隊は、その名の通り演者が甲冑姿で観光案内、演武、ファンサービスなどを行い観光客呼び込みをするいわば「観光資源」である。としている。

歴史的な人物の仮装をしてイベントを行ったのは1999年の水戸黄門漫遊一座による水戸黄門のなりきりがはじめだとされているが、そもそも武将隊というのを最初に始めたのは2009年11月に結成された名古屋おもてなし武将隊であり、厚生労働省の「ふるさと雇用再生特別基金」(2011年終了)の利用によって、地方自治体が資金負担をすることなく用容易に結成することができるという点を活かされた。武将隊の礎を築いた名古屋おもてなし武将隊の運営会社である

三晃社は3つのコンセプトを挙げている。

- 1.徹底的に本物にこだわり、お客様に「武将の世界」を提供する
- 2.雨の日も、風の日も、いつでも名古屋城へ行けば「武将に会える」こと
- 3.武将6名＋陣笠4名が、独自のキャラクターを確立し、エンターテインメントを磨くこと

しかし特にこの3つのコンセプトでなくても武将隊ではないとは言えない。というのも武将隊の中には、活動拠点である城もしくはその街でのイベントのみでしか「出陣」をしないことがあるためである。

ただし伊達武将隊は上記のコンセプト(人数は8名だが)に当てはまる活動をしている。

2.2 武将隊の活動

武将隊の活動(出陣)は多岐にわたる。演武などを披露する「出陣」、その都市ごとのイベント(お祭り、公共施設、城の付属施設の開館式等)での「出陣」、企業主催のイベントでの「コラボ出陣」、その武将隊と交流のある武将隊との演舞などその都市でのイベント出演といった「イベント出陣」に大別できる。この他にも啓蒙キャンペーン(特に事故防止)、特殊なパターンではあるが名古屋おもてなし武将隊ではファンクラブを創設し、特別イベントを行うこともある。

特に出陣が活発に行われている名古屋と仙台の武将隊を例に挙げて説明する。

2.1 でも記したがいつでも武将に会えるというのは2021年現在も続いている。

例えば名古屋おもてなし武将隊は2021年2月1日であれば織田信長、豊臣秀吉、踊舞、太助に名古屋城で会える。仙台でのおもてなしはコロナウイルス感染症対策で去年11月ごろまで中止していたが現在は人数制限を設けて再開しており2月6日には仙台城址でおもてなしの演武、ファンサービス等を行う。

またどちらの武将隊もその週のうちにテレビ出演もしくはラジオ出演を予定している。

3. 先行研究

3.1 武将隊タイプ

河井(2016)では武将隊にはグループがあり、そのグループというのは大きく分けてA～Cの3グループある。

その中でもおもてなし武将隊はCグループに属しており市民ボランティア主体のAグループ、大学等の教育機関主体のBグループとは全く違う形態で運営されている。

AグループとBグループに関してはNPO団体が関わっており利益を出すことよりも地域貢献に力を入れ

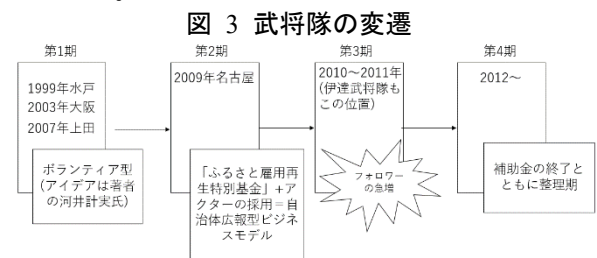
ることが特徴となるがCグループのおもてなし武将隊は委託会社による利益追求を特徴とし、有料イベントへの出陣、ファンクラブの設立等を行い、積極的に地域経済を活性化している。

3.2 おもてなし武将隊乱立

河井(2016)ではおもてなし武将隊以前から存在していた武将隊の変遷についてまとめている。

武将隊の最初は上記グループ分けからAグループ、BグループのNPO法人が関わる利益非追及の武将隊が地域活性化のために設立される。これはボランティア型なので追随する企業、NPO団体は多くみられなかった。その後厚生労働省のふるさと雇用再生特別基金による名古屋おもてなし武将隊が2009年に設立成功した事例を参考に各地方自治体では同じ制度を用いて武将隊が乱立される(フォロワー)。

仙台の伊達武将隊も同じく名古屋の例を参考にしたフォロワーの一例である。しかし基金は2011年度末に終了、フォロワーの多くは事業の委託費を自治体自身のコストで賄わなくてはいけなくなったので、この事業からの退出を余儀なくされた。その後のCタイプの武将隊は約5000万円、もしくは億単位という巨額の委託費で運営される。下図はその流れを図示したものである。



[3]より筆者作成

3.3 予算、人数によるタイプ

西田・倉橋・伊藤(2020)では武将隊における組織、活動の体系化として武将隊にアンケートを送付、それを集計、どのような傾向があるか考察している。

発足年は2010年から2013年が一番多いことや、演者は20代、30代が多い、雇用は主に委託会社の社員がそのまま演者となることが多いこと、日数は60日程度の武将隊が多いことなどを挙げている。

委託会社が運営しているいわゆるおもてなし武将隊の特徴としては、演者の年代は20～30代、俳優やモデルといった舞台経験者で構成されており、演者の歴史理解度はとても高いことも特徴的であること、また予算は約5000万円で運営されていることがアンケート調査で示されている。

4. 研究目的

先行研究では河井(2016)で武将隊の変遷、西田・

倉橋・伊藤(2020)では武将隊の体系についてまとめられているがしかし、その政策に対しての費用便益分析の考察を行っている研究は存在しない。

また会津若松市は歴史のある城下町であり、サムライシティを掲げているが、武将を活かした施策はとられていない。

そこで本研究は会津若松市に武将隊を導入した際の費用便益がどのようになるかを検討、考察する。また今回は仙台市と伊達武将隊の運営会社である株式会社ハートアンドブレイン社にヒアリング調査を行った。

5. 武将隊の費用

武将隊の費用は2011年の事業終了により現状地方自治体負担になっていることが多い。

河井(2016)では名古屋おもてなし武将隊に対する事業委託費についてまとめており2009年から2015年までの平均委託費は7360万円であるとしている。

一方筆者が行った仙台市へのヒアリング調査では伊達武将隊に対しての委託費は平均3000万円ほどであると話した。

6. 武将隊の便益

仙台市へのヒアリング調査で、毎回の演武見学者は平均して300人程度だとしている。仙台城址で伊達武将隊の「出陣」が平均年約120回としていて、この効果を費用便益分析する。

今回は仙台城址での出陣のみを委託費で賄っているとして観光客の消費額から武将隊の効果を分析する。なお伊達武将隊が結成された当時の分析をしなければならぬので2010年度の数値で計算をする。

毎回の見学者300人のうち、伊達武将隊を目的に仙台城址へ足を運ぶ観光客数を200人と仮定しこの観光客の消費額を伊達武将隊の効果とする。ただし日帰り客と、宿泊客の比率はどのような割合になっているか不明なので変更し計算をする。

通年の見学者合計は1万8千人である。合計数に重複があろうとも仙台市で消費をする可能性は高いため合計人数で分析する。

仙台市の観光客数は平成2010年度訳1230万人でありのうち宿泊する観光客約334万人(約27%)である。2010年度の観光客消費額の平均額は日帰り客で8千円、宿泊客3万4千円であり、伊達武将隊が結成されたのは7月なので夏以降の効果を計算する。

今回宿泊客の割合をパターン分けした。宿泊客:日帰り客の比率を1:9、5:5、7.3:2.7、9:1で計算した。それぞれパターン1~4とする。パターン1は県内から来た等の日帰り観光客が多かった場合、パターン2は同じ比率だった場合、パターン3は宮城県の統計通りだった場合、パターン4は県外からの見学者が多

かった場合を仮定している。

計算結果としてパターン1は約1億9200万円(約6.3)、パターン2は約3億5900万円(約12.0)、パターン3は約2億円(約6.6)、パターン4は約5億3000万円(約17.6)であった。

いずれのパターンにおいても委託費3000万円よりも大きな成果が出ているため武将隊の効果は大いに期待できる。

7. 会津若松市における導入

今回会津若松市に武将隊を導入する際の条件を付け、算出した条件は以下の通りである。

1. 鶴ヶ城やその他の歴史的資源のある場所でのおもてなしをすること

2. 鶴ヶ城で年100回程度演舞を行うこと

3. 歴代おもてなし武将隊と同じように委託事業で運営されることとし歴史的資源に力を入れていることから委託費を4000万円と仮定する

4. 一回当たりの演舞見学者の人数を150人とする

8. 費用効果分析

費用便益で出た値が1以上であればその政策は効果があるといえる。

会津若松市の観光客数は2020年度約300万人、鶴ヶ城の2020年度入込数は57万人となっている。

会津若松市の観光客は9割以上が宿泊しており、一人当たりの平均消費額は2万5千円となっている。

見学者数は通年1万5千人でありこの効果を分析する。算出方法としては先ほどと同じ計算をする。ただし武将隊目的の観光客数割合を考慮する必要があるため3パターン(それぞれパターン1~3)を用意する。

パターン1は武将隊目的の見学者:そうではない見学者の割合を5:5、パターン2は3:7、パターン3は7:3とした。パターン2は事前の期待があまりなかった場合、パターン3は逆に事前期待度が高かった場合を仮定した。

10万の位を切り捨てた算出結果はパターン1では約1億8700万円(約4.68)、パターン2では約1億1200万円(約2.81)、パターン3では約2億6200万円(約6.56)となった。パターン1と2ではサービス利用者に対し少しだけ利便性を感じられる数値となった。パターン3では利便性を感じられる結果となった

9. 結論

本研究では会津若松市に武将隊を導入することでどのような効果が生まれるのかを仙台市の事例を参考に調査した。武将隊の導入は地元の観光業に大きな効果を与え、また活性化の要因の一つとして

十分に有効な手法であることが分析で明らかになった。

会津若松には蒲生氏郷といった個性的な武将が存在するので、武将隊を設立することはサムライシティのブランド力を大いに増強し、食文化や観光スポット以外にもエンターテインメントとしての会津若松市を形成することができるのではないのだろうか。

10. 今後の課題

様々な要素をすべて見ずにシンプルな仮定のみで算出したため多くの考慮すべき問題が残っている。例えば本来であれば武将隊を見に来た観光客であるのかをヒアリング調査するべきではあったが現在の状況から無観客での開催だったため不可能であったこと、算出式も条件変化で数値変化するので数値が大きく変わる可能性が高い。またおもてなし武将隊を運営している自治体は他にも複数ありサンプルを増やすことも今後の課題である。

11. 謝辞

今回の研究でヒアリング調査に時間がないなかご協力をいただいた、仙台市観光課の小沼濤奈様、金田邦典様に感謝の意を表します。

参考文献

- [1] 河合計実(2016)「市民ボランティア組織論からみる歴史仮装イベントのサステイナブルな運営と地域づくりにおける効果」『創造都市研究 e 第11巻1号』(大阪市立大学大学院創造都市研究科電子ジャーナル) <https://e-journal.gsum.osaka-cu.ac.jp/ejcc/article/view/751/732>
- [2] 西田智裕、倉橋岳、伊藤孝紀(2020)「武将隊における組織と活動の体系化」『日本デザイン学会研究発表大会概要集 第67回春季研究発表大会』
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jssd/67/0/67_172/_pdf/-char/ja
- [3] 寺田ゆかり「観光における地域性とホスピタリティ—奥州・仙台おもてなし集団伊達武将隊を事例として」『東北大学機関リポジトリ TOUR 2015 年度東北人類学論壇』
https://tohoku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=2144&item_no=1&page_id=33&block_id=38
- [4] 奥州・仙台 おもてなし集団 伊達武将隊 公式ホームページ <https://datebusyou.jp/> (2020/8/11 参照)
- [5] 名古屋おもてなし武将隊 公式ホームページ <https://busho-tai.jp/> (2020/9/24 参照)
- [6] 会津若松市 令和元年度会津若松市観光客入込の概況について
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2020031200024/files/gaikyou.pdf> (2020/10/25 参照)
- [7] 会津若松市 令和元年度施設入込み状況

- [8] <https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2020031200024/> (2020/10/25 参照)
みやぎ観光 NAVi!! 観光統計概要(平成21年、平成22年)
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/600139.pdf>
<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/600138.pdf> (2021/2/5 参照)
- [9] 会津若松市 平成27年度第三次会津若松市観光振興計画
<https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/docs/2017032700011/files/keikaku.pdf> (2021/2/6 参照)